

大津市議会の議会活動に関する 評価検証報告書

〈検証実施者〉

龍谷大学 政策学部

今里ゼミ学生

評価項目	(1) 議案審査・調査－① 議案審査	
概要	・ 議案の審査にあたっては、議会運営委員会での取り扱いの協議、会派説明会、本会議での質疑、委員会での審査を経て本会議での討論・採決を行っている ・ 今任期にあつては、議案の否決は0件、撤回が1件、訂正が1件であった ・ 今任期にあつては、修正案の提出はなかった ・ 今任期にあつては、組替動議については3件(H31.2、R1.6、R2.7)あった。うち1回(R1.6)は可決された	
議員意見	・ コミュニティセンター条例の時に見られた議案へのやりとりは、一定議会としての権能が示されたと言えるが、その他は同意しかしていないことに批判も一部ある。 ・ 事前レクをしていることを理由に、委員会での発言を制する不規則発言がある。 ・ ITの普及に合わせた改善が十分に検討されていない。 ・ 市民目線でのチェックが入ることにより、条例・予算が適正なものになっている。 ・ 専門的な見地からのチェックが不足している。 ・ 提出（予定）議案に対する議員それぞれの気づきや課題認識を会派内だけでなく、議会全体で共有する仕組みを制度化してはと考える。	
議員評価	B	議会活動において最も重要な事柄であるが、更なる効果向上の余地が見込まれる。負担が軽く検討すべき点があるため、Bと判断する。
課題	ICTのさらなる活用といった効率面と、資料・説明の充実、議案の十分な審議、本会議・委員会での発言の在り方、会派説明での気づきの共有など手法やプロセスにかかる事柄等が、課題と考えられる。	
今後の方向性	②	説明内容や資料の充実・会派説明での気づきの共有等については検討すべきと考え、②と判断する。

総合評価 A 十分な成果が出ている、B 成果が出ているが改善の余地がある、C 成果が不十分、D 成果が出ていない

今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要

評価項目	(1) 議案審査・調査－① 議案審査
------	--------------------

評価詳細	・ 議案採決に当たっては、十分な審査、調査を行っていたか	
評価資料	・ 委員会審査傍聴 ・ 本会議の審議傍聴 ・ 本会議の録画配信	
学生意見	・ 議案採決の前に討論の時間を設けることで、議論が深まっている。 ・ 電子採決によって、採決がスムーズに進んでいる。 ・ 討論の後に議員同士が話し合う時間があれば、よりよい採決を行うことができるのではないか。 ・ 議員の質疑・一般質問に対して、準備した応答資料をただ読んでいるように見える。用意していなかった質問に適切な応答ができていない場面も見受けられた。 ・ 質疑・一般質問の際に補足資料としてスクリーンに投影することで、より分かりやすく説明している議員がいる一方で、そのような機能を活用していない議員もいる。 ・ 本会議中に目を瞑っている議員が目立った。 ・ 委員会が短時間で終了したため、議案をさらに詳しく審査する場である委員会で、発言が少なくても良いのかと疑問に思った。	
学生評価	B	議案採決に当たって、スムーズな審査、調査が行われてはいるが、ICT の活用や議論をより充実させるなど更なる効果向上の余地があるため、B と判断する。
課題	ICT が十分に活用できていないことや、会議や委員会における質疑応答が形式的なものになっており、発言が少ないことが課題と考えられる。	
今後の方向性	②	適切な議論が行われている一方で、ICT の更なる活用や、会議の形式といった面で改善の余地があると考え、②と判断する。

総合評価 A 十分な成果が出ている、B 成果が出ているが改善の余地がある、C 成果が不十分、D 成果が出ていない

今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要

○は追加資料

評価項目	(1) 議案審査・調査－② 所管事務調査	
概要	・ 常任委員会においては、所管事務についての調査・研究及び委員間討議を実施し、毎年2月通常会議に報告を行っている ・ 特別委員会にあっては、調査・研究及び委員間討議の結果について、毎年2月通常会議に中間報告又は終了報告を行っている ・ 4 常任委員会にあっては、令和2年度、令和3年度はコロナ禍により市外視察を行わなかった	
議員意見	・ 市の重要な案件について、直接調査することができ、効果が大きい。 ・ 執行部との意見交換を活発にできる機会となっている。 ・ 市外視察を再開し、先進的事例を調査した議会への提案も必要。 ・ 委員間協議の結果がどのように反映されているかが見えにくい。 ・ 議員が主体となって聞き取り調査を行い、委員間による討議を実施することが効果的な権能の発揮につながると考える。	
議員評価	B	議会活動において最も重要な事柄であるが、実地調査や討論を充実させるなど更なる効果向上の余地があるため、Bと判断する。
課題	所管事務調査のみで終わっている、結果が反映されているのか判りにくいという効果面と、ICTのさらなる活用といった効率面、先進的事例調査・視察が必要というプロセスに関する事柄等が、課題と考えられる。	
今後の方向性	②	今後ICTやDXの視点を取り入れた改善や、調査結果の反映状況の確認等、実地調査や討論の充実を検討するべきと考え、②と判断する。

総合評価 A 十分な成果が出ている、B 成果が出ているが改善の余地がある、C 成果が不十分、D 成果が出ていない

今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要

評価項目	(1) 議案審査・調査－② 所管事務調査	
評価詳細	・計画や事業が適正なものになるよう、委員会として意見を出し、改善しているか	
評価資料	・委員会傍聴 ○令和3年度、所管事務調査報告書（委員長報告書）	
学生意見	・調査項目の策定経緯やこれまでの議論を踏まえ、実地調査やアンケート、意見交換など積極的な調査が行われていた。 ・市民や事業者といった多くの観点から調査項目について検討されていた。 ・第3期大津市観光交流基本計画の策定についての部分のように、「移動手段を活かしたツーリズムの提言や歴史的資源を活かしたPRが有効である」といった委員会の明確な考えが示されている項目もある。 ・国内の情勢等も考慮した議論がなされている。 ・執行部に対し、具体的なことを求める項目も見られたが、「実効性が高い計画」といった抽象的なことを求めている部分が気になった。 ・他市との比較や、先進事例の調査が見られなかった。	
学生評価	B	積極的な調査・議論がなされていたが、他市の調査など、より調査・議論を充実させることができると考えたため、Bと判断する。
課題	コロナ禍により市外調査ができていないことや、先進事例の調査が見られないこと、委員会としてどのような考えを持っているのかが分かりにくいことが課題として考えられる。	
今後の方向性	②	現状として、すでに市民や事業者の視点から幅広い項目の調査がなされているため、現状を基本としつつ、課題が改善されることを期待する。

総合評価 A 十分な成果が出ている、B 成果が出ているが改善の余地がある、C 成果が不十分、D 成果が出ていない

今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要

○は追加資料

評価項目	(2) 議会の機能強化ー① ICT の活用	
概要	・ 前任期から引き続きタブレットを活用し、ペーパーレス化、議会活動の効率化、危機管理対応、議会・議員活動の広報に努めている ・ 前任期から引き続き議場においては個別賛否システム、質問資料の投影、インターネット配信を行い議会の見える化に努めている ・ 令和3年度には、聴覚障害者用モニターを議場内傍聴席に設置した ・ 令和3年度には、委員会インターネット中継の実施方針を決定した ・ 令和3年度には、オンライン委員会を開催できるよう委員会規程を改正するとともに、4 常任委員会及び議会運営委員会を開催した ・ 高校生や各種職能団体とのオンライン意見交換会を実施した	
議員意見	・ オンライン委員会については、出産・育児・介護病気など議員個々の事情があっても出席可能となり、議員の権限を発揮できる。また、多様性の観点からも議員の個性を尊重した議会運営が可能となった。 ・ 今後は、大津市独自に検討するだけでなく、共通ツールなども検討すべき ・ 本会議のオンライン開催を可能とするように国への要望を続ける	
議員評価	B	議会活動において最も重要な事柄であるが、更なる効果向上の余地が見込まれる。負担が軽く改善すべき点があるため、Bと判断する。
課題	オンライン委員会での音響や、インターネット配信の充実(残時間や字幕)、聴覚障害者がインターネットで本会議や委員会の視聴ができないこと等が、課題と考えられる。	
今後の方向性	②	今後とも委員会インターネット中継実施に向けて様々な I C T の利用の検討を行うべきと考え②と判断する。

総合評価 A 十分な成果が出ている、B 成果が出ているが改善の余地がある、C 成果が不十分、D 成果が出ていない

今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要

評価項目	(2) 議会の機能強化ー① ICT の活用
------	-----------------------

評価詳細	・ 議会で最新の技術を活用しているか ・ ほかに技術を活用できる場所はないか	
評価資料	・ 大津市議会ホームページ ・ Facebook	
学生意見	<議会で最新の技術の活用> ・ 議会に動きがあるごとにフェイスブックが写真付きで更新されているので、議会の活動が見えやすい ・ 会議の録画映像に話の概要や注釈、字幕を付けると、誰でも議論の内容を理解しやすくなる <ほかに最新技術を活用できる場所があるか> ・ Facebook やホームページ以外に若年層の利用率の高い LINE を使って議会の情報を発信していくことができると考える ・ ICT の技術を活用して、市民が気軽に市議会に意見を伝えられるような仕組みを作ることも可能ではないか	
学生評価	B	インターネット中継やタブレットを使用した質疑、一般質問など大津市議会の議会 ICT 化は十分に進んでいると言えるが、その先進性と効果がホームページ、Facebook においてはあまりアピール出来ていないことなど改善の余地があると考えたことから、B と判断する。
課題	・ 大津市議会ホームページが市民のような一般の目には少し難しい内容であることが考えられる。 ・ YouTube や Facebook を積極的に更新しているものの、市民に広く知られているとは言えない。	
今後の方向性	②	リニューアルされた市議会だよりのように、市民がより議会についてより分かりやすいようなホームページを目指すべきではないかと考え、②と判断する。

総合評価 A 十分な成果が出ている、B 成果が出ているが改善の余地がある、C 成果が不十分、D 成果が出ていない

今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要

○は追加資料

評価項目	(2) 議会の機能強化－② 議事運営の見直し	
概要	・ 毎年招集会議に先立ち議会運営の見直しを行っている ・ コロナ対策のため会議・委員会の運営方法を暫定的に変更している ・ 議会にかかる文書の押印について、廃止の方向で見直しを行った	
議員意見	・ 議会運営の効率化につながっている。 ・ 感染状況に応じた見直しを随時行う事により、機能的な議事運営につながっている。 ・ コロナ対応により委員会室のスペースの問題はあるが、傍聴者に制限がある。市民に開かれた議会運営となっているとは思えない ・ 毎年見直しを行う機会を作ることにより、暫時議会の改善が図られている。 ・ 概要に記載されているように、毎年、必要に応じた見直しや変更を協議しており、これまでどおりの対応で問題はない。	
議員評価	A	負担感がなく、必要性に応じた一定の効果がでていたためAと判断する。
課題	おおむね課題はなかった。	
今後の方向性	①	現在も一定の効果がでていたため、今後とも現状の通り、年に1回の見直しと、重要事項については随時の見直しを行うべきと考え、①と判断する。

総合評価 A 十分な成果が出ている、B 成果が出ているが改善の余地がある、C 成果が不十分、D 成果が出ていない

今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要

評価 項目	(2) 議会の機能強化－② 議事運営の見直し
----------	------------------------

評価 詳細	・コロナ対策で議会運営を見直したが適切だったか ・この間の議会運営の見直しは市民感覚に合っているか	
評価 資料	○議会運営の見直し資料 ○コロナ禍の議会運営資料	
学生 意見	〈コロナ対策における議会運営の見直しについて〉 ・コロナ対策に関して、項目ごとに対応が分けられており、こういった場合にどのような措置を取ればよいのかが分かりやすい。 ・議員の中でコロナに感染した方や濃厚接触者の方の両方に対応されており、迅速にかつ、現代の ICT 化の面においても上手く活用されている。 ・コロナが流行している中でも議会活動を止めてしまうのではなく、市民に議会の活動を伝えていく前向きな姿勢は地域の方にとっても今後、任していく事が出来る議会であると考えた。 ・傍聴者の人数が限られてしまうと、市民の議会への関心や興味が薄くなってしまわないか。 ➤全体として、コロナ禍における議会運営はさまざまな状況に対応した対策が行われており、議会活動に安心して取り組む事が出来ると考えた。 〈議会運営の見直しについて〉 ・議会の見直し資料に関して、問題とされる部分の対応が抽象的すぎる部分が見られる。 ・見直しの項目において、全体的に些末なものが多く見られるように感じる。 ・『議会運営に関する確認事項 意向取りまとめ表』の賛否や結論の部分でのどのような方法で評価しているのか分からない。採用になった場合にどのように議会に活かしていくのかが分からない。	
学生 評価	B	コロナ禍の議会の運営においては、状況に応じて対策が講じられており非常に効率が良いものであると感じた。しかし、議会の運営の見直しにおいては、改善点が多いのではないかと感じたため B と評価した。
課題	・主に議会の見直しの方向において、意向や詳細部分から賛否や結論に至るまでの過程がない。	
今後の 方向性	②	年に 1 回の見直しや重要事項について見直しを行い、見直しの方法や経緯を記載していく必要があると感じたため、②とする。

今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要

○は追加資料

評価項目	(2) 議会の機能強化ー③ 大学との連携	
概要	・専門的知見を活用する体制として、大学とパートナーシップ協定を締結している（龍谷大学・立命館大学・同志社大学政策学部） ・龍谷大学の図書館と連携しており、リファレンスの利用がR1に4回、R2に2回R3に1回の実績があった ・龍谷大学、立命館大学のインターンシップ生受け入れを行っているが、議員改選期・コロナ禍のため、今任期の受け入れは現在0名である ・議会活動の評価において、各大学の教授から専門的見地による評価・助言をいただく	
議員意見	・議会機能(政策立案機能)の充実強化を目的とした専門知見の活用は、コロナ禍の下では機能していなかった。 ・コロナ禍ということもあり、効果は不十分 ・パートナーシップ協定書に基づく取り組みの推進 ・議会図書室の充実に伴い、大学図書館との連携の有用性が低くなりつつある。レファレンスの活用もあまりなされていないので、連携のあり方については検討が必要でないか	
議員評価	C	コロナ禍で効果が低調であったにも関わらず、これを踏まえた改善がなされていないためCと判断する。
課題	今期での協定として行われる事柄が、リファレンス、インターンシップだけであったこと等が課題と考える。	
今後の方向性	③	パートナーシップ協定を振り返り、積極的に政策立案や議案審査においても助言を求めるなど、更なる取り組みの模索を検討する必要があると考え、③と判断する。

総合評価 A 十分な成果が出ている、B 成果が出ているが改善の余地がある、C 成果が不十分、D 成果が出ていない
 今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要

評価項目	(2) 議会の機能強化－③ 大学との連携
------	----------------------

評価詳細	・大学の専門的知識を議会は活用できているか	
評価資料	追加資料なし	
学生意見	<若者(学生)との交流> ・コロナ禍においても議会評価などを通じて、若者の意見を広聴しようとする姿勢は感じることができるが、対面での懇談等や議員との懇談の機会が不十分である。 ・大学生による大津市議会の議会評価に際して、大津市議会議会局より丁寧な講義をしていただいたため、地方自治の基礎知識をもって、議会評価に望むことができた。 <大学教員(専門的知識)の取り入れ> ・大学教員による講演会などが過去に行われており、専門的な知識を取り入れる取り組みは行われていると言える。 ・知識を取り入れることは実施できているが、それを実際に活用した例は確認することができなかった。	
学生評価	B	上記の通り、専門的知識を聞く体制を整えること・実行することは既に実施済みであるが、コロナ禍ではあるがそれを活用できていないと判断することから学生の評価としては B とする。
課題	・大学の専門的知識を活用した事例がかなり少ない。 ・政策について議論する中で行政との専門的知識を活かした連携も必要である。	
今後の方向性	③	大学の専門的知識を取り入れ、活用していく体制は今後も積極的に取り入れるべきであり、現段階ではその体制が出来上がっていないため、議員だけではなく、条例や予算を提出する行政も一体となって大学の専門的知識を取り入れる体制に改善が必要と判断したため、③とする。

総合評価 A 十分な成果が出ている、B 成果が出ているが改善の余地がある、C 成果が不十分、D 成果が出ていない
 今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要
 ○は追加資料

評価項目	(3)政策立案・提言－①政策検討会議における政策立案	
概要	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、令和２年度は「感染症に係る議会BCPの見直し」を除く全ての政策検討会議を一時休止することとなった ・「議員提案条例や議会からの提案内容の検証手法構築」については、これまでに策定した議員提案条例や議会からの提言について事後的に検証するスキームを構築した ・「感染症に係る議会BCPの見直し」については感染症対策を盛り込んだ形に議会BCPを改定した ・「公文書管理のあり方」及び「歯と口腔の健康づくり」は、ともに令和元年度に政策検討会議を立ち上げ、議論を進めてきた。いずれも令和４年度末までに議会としての意思を執行部に示すため、引き続き会議としての意見集約を行っていく ・「若者の議会への関心と投票率向上の仕組みづくり」は、高校生との意見交換会を制度化し、必要に応じて提言等を行うスキームを構築した。また、市内の高校生と主権者教育に資する動画を作成し、教材として活用いただけるよう配布した	
議員意見	・いずれの取り組みも一定の成果が出ている。 ・コロナ禍により満足の行く検討ができていない。 ・議論が行われること自体が有効であり、提案や提言ができたことはよかった ・議員が主体的に政策立案を行うことは必要	
議員評価	B	必要に応じた一定の成果が出ているものの、スケジュールやオンライン活用等改善の余地があるため、Bと判断する。
課題	提案に対する取組状況の確認をしっかりと行っていくことや、会議が開催できない状況下でも議論を進める手法を更に深めていくこと、政策検討会議で議論中のテーマに関する当該会議の委員による一般質問についての共通理解等が課題と考える。	
今後の方向性	②	現在も十分な成果が出ているが、実行テーマについては、途中での見直しを含めた精査や、事務局の体制を踏まえたテーマ決定、スケジュールの見直しについて検討の余地があると考え、②と判断する

総合評価 A 十分な成果が出ている、B 成果が出ているが改善の余地がある、C 成果が不十分、D 成果が出ていない

今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要

評価項目	(3)政策立案・提言－①政策検討会議における政策立案
------	----------------------------

評価詳細	・実効性のある条例制定・政策提言が行えているか	
評価資料	○政策検討会議、各種最終報告書	
学生意見	【動画について】 ・「若者の議会への関心と投票率向上の仕組みづくり」では、高校生と動画作成を行い、高校生の出演した動画では再生回数も伸びている。今後は連携した高校だけでなく、他校の生徒など津市内の若者が興味を持つような動画を期待する。 ・市民にもわかりやすい内容の動画が作成されているが、再生回数は伸びていない。動画のサムネやタイトルも興味をそそらず、一目で何について検討されたのかわからないことも再生回数の低い理由としてあげられるのではないかな。 【オンライン活用の必要性】 ・高校生との意見交換会において、コロナ渦により、一年三か月中断したとあったが、救済処置として、オンラインで開催するなど対応できたのではないかな。 【総評】 ・「若者の議会への関心と投票率向上の仕組みづくり」では、高校生との意見交換会を制度化するなど成果が出ており、全ての市立小中学校の教職員にも周知したことが高校や大学に広がってだけでなく、幅広い若者の議会や政治への関心を高めることに繋がって欲しい。	
学生評価	B	学生評価として、「若者の議会への関心と投票率向上の仕組みづくり」に焦点を当てた。高校生との意見交換会を制度化するなど一定の効果は出ているが、より幅広い若者の議会や政治への関心を高めることへの改善の余地があるとみなすため、Bと判断する。
課題	「若者の議会への関心と投票率向上の仕組みづくり」では、高校生と動画作成を行い、高校生の出演した動画では再生回数も伸びているが、ほかの動画の再生回数は未だ低いままであるため、高校生との意見交換会の中でそのような動画の再生回数の向上も目指してほしい。	
今後の方向性	②	コロナ渦により高校生との意見交換会を長期間中断していたが、オンライン活用などで対応できたのではないかな。自己評価でもオンライン活用の改善の余地ありと評価しているため、今後の活動に活かしてほしいと考え、②と評価する。

総合評価 A 十分な成果が出ている、B 成果が出ているが改善の余地がある、C 成果が不十分、D 成果が出ていない
 今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要
 ○は追加資料

評価項目	(3) 政策立案・提言－② 決議・意見書案の提出	
概要	・意見書案については、原則として通常会議初日の翌日、代案・修正案・決議案については常任委員会開催日が提出の締切となっており、最終日に上程・即決を行っている ・意見書は R1(今任期)可決 10 否決 15、R2 可決 12 否決 16、R3 可決 7 否決 22、R4 可決 4 否決 6 ・決議案は R1 可決 1 否決 0、R2 可決 0 否決 0、R3 可決 0 否決 0、R4 可決 2 否決 1	
議員意見	・決議については、法的拘束力はないものの、大津市議会としての意思を対外的に表明する意味で高い効果が出ていた。 ・意見書については各会派議員の発案により議論が深まり効果が出た。 ・提案に対する会派間での議論が見えない。 ・議会の意思を対外的に表明するため、決議案、意見書案の議決することは市民の民意を国や県の制度などに反映させ、また、二代表制を効果的に機能させるためにも効果が期待できると考える ・市の施策に関連のない、決議案・意見書については必要性を考えるべき	
議員評価	B	議会活動において最も重要な事柄であるが、更なる効果向上の余地が見込まれる。負担が軽く検討すべき点があるため、Bと判断する。
課題	会派での議論や周知を行う十分な時間が取れていない、本市と直接関係のない内容や、すでに否決された内容の同内容の意見書が提出される、提出会派から賛成討論がなされる、反対意見が不明であること等が、課題と考えられる。	
今後の方向性	②	おおむね成果が出ているが、提出内容や賛否理由の明確化等について検討の余地があり、②と判断する。

総合評価 A 十分な成果が出ている、B 成果が出ているが改善の余地がある、C 成果が不十分、D 成果が出ていない

今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要

評価項目	(3) 政策立案・提言－② 決議・意見書案の提出
------	--------------------------

評価詳細	・決議や意見書について、適切に審議がされているか	
評価資料	・本会議の審議傍聴 ・本会議の録画配信 ○決議・意見書一覧	
学生意見	【意見書について】 ・意見書について、各議員により議論が深まっていると思う。 ・市民からの「沖縄戦戦没者及び遺族の尊厳を守る対応を求める意見書」という陳情をもとに議論され、可決されたことは、市民意見を反映させており、今後の活発的な市民参画に期待できると考える。 ・本会議の録画配信でどの意見書がどこで議論されているのかわかりづらい。 【討論について】 ・「討論」の際、提案説明に対しての賛成意見を述べるのみであるため、討論が行われていると言えないのではないか。 ・討論から決議に移るまでの時間が短いため、議員が各々、採決の前に検討する時間を設けるべきでは。	
学生評価	B	市民からの陳情についての議論が可決されたことは、市民意見が反映されており、今後の活発な市民参画に寄与しているといえるが、討論の内容に改善の余地があるとみられるため、Bと判断する。
課題	討論から決議に移るまでの時間が短いため、採決の前に検討する時間を設けることや、提案に対する賛成意見しか挙げられていないため、討論が行われているとは言えないことなどが課題と考える。	
今後の方向性	③	課題で述べた通り、決議までの時間の確保や討論の形式について改善する必要があると考えるため、③と評価する。

総合評価 A 十分な成果が出ている、B 成果が出ているが改善の余地がある、C 成果が不十分、D 成果が出ていない

今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要

○は追加資料

評価項目	(4) 広報広聴－① 議会だよりの充実	
概要	・ 大津市観光キャラクターや市民が登場する表紙とするなど、親しみやすさ、手に取りやすさを高めるため、表紙の改善を図った ・ 本文に使用するフォントを UD フォントに改めた ・ 段組みのスペースを大きくとるなど、レイアウトの工夫により読みやすさの改善を図った	
議員意見	・ 表紙にたくさんの市民も載っており親しみやすくなっている。 ・ 親しみやすく工夫したことは有効だと思うが、論戦や賛否の理由を明らかにしていない ・ 議論のプロセスがわからない ・ 読みやすくなった ・ 手に取りやすい表紙となった ・ 請願に対する賛否とその理由、意見書案に対する賛否の理由が掲載されず市民に対し十分な情報を提供、報告ができていないと言えない	
議員評価	B	情報発信ツールとしての必要性を踏まえ、一定の改善がされたものの、さらなる充実が必要なため、Bと判断する。
課題	市民、とりわけ若者や議会への関心が低い人に、手に取ってもらう工夫、議員の関与と議会局職員負担の見直し、請願や意見書に対する賛否の理由掲載による市民への十分な情報提供について検討が必要なこと等が課題と考える。	
今後の方向性	②	市民の議会への関心惹起を図るために、双方向コミュニケーションを図りながら誰にとっても読みやすいツールとして活用できるよう、議員の関わりや議会局職員の負担軽減を含め、引き続き広報広聴委員会での議論が必要と考え②と判断する

総合評価 A 十分な成果が出ている、B 成果が出ているが改善の余地がある、C 成果が不十分、D 成果が出ていない

今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要

評価項目	(4) 広報広聴－① 議会だよりの充実
------	---------------------

評価詳細	・4年前と比較して議会だよりは読みやすくなったか ・議会活動が判りやすく伝えられているか	
評価資料	・議会だより（大津市議会ホームページで閲覧可能です）	
学生意見	見た目 ・シンプルで親しみやすいデザインである ・表紙に目次がなくなり、一目で内容が分からなくなった ・市政ビフォーアフターが概要にあったが、一般質問のところに移動しているのいい。 ・アンケートが入るようになった。最後にカラーのアンケート結果があり、アンケート内容が分かりやすくなった。 内容 ・請願には不採択になったものが書かれているのに対し、意見書では可決されたものが書かれており、少し分かりづらい。また、不採択・可決になった理由が書かれていない。	
学生評価	B	デザインやレイアウトが改善された点が多くみられ、より見やすくなった。しかし、変更されたことで見にくくなった点もあると感じたため、Bと判断する。
課題	情報ツールとして、請願等の賛否理由など掲載する必要があるものはなにか検討することが課題であると考える。	
今後の方向性	②	議会活動を市民により分かりやすく伝えるためには、さらなる検討・改善が必要であると考え、②と判断する。

総合評価 A 十分な成果が出ている、B 成果が出ているが改善の余地がある、C 成果が不十分、D 成果が出ていない

今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要

○は追加資料

評価項目	(4)広報広聴-②広報広聴ビジョン策定に向けた取組	
概要	・他都市の事例調査及び市内 13 歳以上の 3,000 人を対象とした無作為抽出によるアンケート調査を実施し、他都市の現状把握や市民の議会広報に対する認知度や情報到達度などの把握に努めた ・議会広報広聴委員会において、アドバイザー出席のもと、議会広報全般についての在り方を検証し、大津市議会の広報広聴機能の充実にに向けた戦略の方針を示す「広報広聴ビジョン」を策定した ・広報広聴ビジョンで定めた広報広聴戦略に基づく取組を計画的に推進するために「広報広聴ビジョンアクションプラン」を策定した	
議員意見	・市民アンケートの実施や広報広聴ビジョン・アクションプランの策定など、市民目線での取り組みとなるよう工夫改善されている。 ・ビジョン策定という効果は十分 ・市民から負託を受けた議会が説明責任を果たす観点からも、広報と広聴は住民自治を実現する根幹となるものであり、同ビジョン策定の意義は大きいと考える。議会ミッションロードマップに基づく取り組みであり、成果物と評価して①とします。（実質的な効果は今後の取り組みによる）	
議員評価	A	議会局職員の負担が大きいことが課題ではあるが、策定のプロセスに問題なく、負担に見合った効果が期待できるため、Aと判断する。
課題	ビジョン実現に向けたアクションプラン実施への負担感や、いかに効果・実証性を担保するか等が課題と考える。	
今後の方向性	①	今後、実施に当たって顕在化する課題に対処する必要があるが、年度計画に基づき実現するべきと考え、①と判断する。

総合評価 A 十分な成果が出ている、B 成果が出ているが改善の余地がある、C 成果が不十分、D 成果が出ていない

今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要

評価項目	(4)広報広聴-②広報広聴ビジョン策定に向けた取組
------	---------------------------

評価詳細	・策定されたビジョン及びアクションプランの実行により、議会の広報広聴が充実する内容となっているか	
評価資料	○広報広聴ビジョン及びアクションプラン ○アンケート調査結果報告書	
学生意見	・ミッションロードマップに基づき、広報広聴活動の充実のための具体的なプランとして広報広聴ビジョンを作成している。 ・現状の確認のため、市民に対するアンケートを行っていることから、ビジョンの説得性を感じられる。 ・他自治体と比べて先進的に取り組んでいると思う。今後の進め方に期待。 ・アンケート調査から、若年層は SNS を使い慣れているのにも関わらず、大津市議会の情報にアプローチしていない。 ・広報広聴ビジョンにある「AISAS」を用いて若年層に焦点を当てて分析をすると、若年層を含む大津市民による十分な市議会への政治参加が行われているとは言い難い状況である。 ・各年ごとに計画的な事業計画が立てられている。計画的に事業を進めるために、中間年度と最終年度だけでなく、各年で成果確認をする必要があるのではないか。 ・大津市の人口 34.1 万人に対しアンケート総数 858 人なのは少ない ・アンケート回答者が年代によって偏りすぎでは。100 人も差がある年代もある。	
学生評価	B	アンケートの対象者を増やすことで、より具体的な取り組みを考えることができ、さらなる効果が期待できると考えたため B とする。
課題	今後の具体的な方向性を記述して報告すべきではないか。現段階では、大津市の広報広聴の現状を検証しただけで終了してしまっている。また、アンケートの総数や回答の年代が偏っていることが課題であるとする。	
今後の方向性	②	他自治体と比べ先進的に取り組んでいて、市民に対してアンケートを行うことでビジョンの説得性がある。この検証をもとに今後の具体的な課題解決へのプロセスを踏めることを期待する。

総合評価 A 十分な成果が出ている、B 成果が出ているが改善の余地がある、C 成果が不十分、D 成果が出ていない

今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要

○は追加資料

評価項目	(4) 広報広聴－③ 市民意見の聴取	
概要	・平成 31 年度の各種団体とのワークショップ形式による意見交換会の開催状況は以下の通り（以降は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により対面式の意見交換会は実施していない）。かがやきネットワーク・大津市医師会・大津市歯科医師会・大津市薬剤師会・大津市社会福祉協議会/民生委員児童委員連絡協議会 ・コロナ禍における広聴活動としてのオンライン意見交換会の開催状況は以下の通り（令和 3 年度実施） 大津市医師会・大津商業高等学校 ・議案審議に直結するような重要な市政課題について「賛成」「反対」双方の市民意見を聴く場として「市政課題公聴会」を設置するための規程を策定した	
議員意見	・コロナ禍の中、オンラインを活用し可能な範囲で実施することができた ・新たな制度に向けた取り組みをすることができた。 ・コロナ禍で意見交換会が不十分であった。 ・定例の団体との意見交換の場は、継続できており、時勢に合った情報を得る機会ともなっていて必要。 ・学生との意見交換は、普段接点が少ないことから貴重な時間となる。	
議員評価	B	オンライン活用や学生との意見交換などにより新たな効果が出ているが、更なる改善の余地があると考え、Bと判断する。
課題	相手方となる団体の固定化を招かないよう、より多くの団体や、広く市民の声を聴く機会を確保すること等が課題と考える。また、市政課題は、議員が直接市民意見を収集すべきかどうか、改めて検討する余地がある。	
今後の方向性	③	多様な主体との意見交換が可能となるよう、手法の検討や市民意見の聴取の方法を含めた議論が必要であるため、③と判断する。

総合評価 A 十分な成果が出ている、B 成果が出ているが改善の余地がある、C 成果が不十分、D 成果が出ていない

今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要

評価項目	(4) 広報広聴－③ 市民意見の聴取
------	--------------------

評価詳細	・ 大津市議会が市民意見を積極的に聞こうとしていると感じるか	
評価資料	・ 大津市議会ホームページ ○市民との意見交換の実績	
学生意見	・ <u>議会から見た市民の距離は縮まったが、市民から見た議会への距離感は縮まっていないままだった。</u> ・ 他議会に比べ先進的に市民意見を傾聴する傾向があった。 ・ 市民意見の内容について明記されていなかった。 ・ 特定のセクターに限らず、学生の意見も聴取するなど一定程度の積極性が見られた。 ・ ヒアリングが一方的なものではなく、ヒアリングの結果が双方にとって効果的なものになるような、今後のビジョンを明確化すると良いのではないかと。 ・ ホームページやチラシなど情報媒体において意見交流がしたい団体を募集するような動きがあれば、より本質的な意見交流ができるのではないだろうか。	
学生評価	B	行動に移すためのデータ収集は偏りはあるものの市民から一定数傾聴することができているため、今後の動きに期待する。
課題	・ ヒアリングした先の市民の意見が表記されていない。 ・ 医療関係と学校などヒアリング先に偏りがある。 ・ ヒアリングの母体数が総人口に対し十分ではない ・ 意見交換会の内容を詳らかに示す必要があるのではないかと ・ ヒアリングをもとに、今後どうすべきかといったビジョンが見えてこない	
今後の方向性	②	・ 学生にはヒアリングができているため、企業の業界、シニアや親世代、学生、独身など様々なセクターの方々へ向けて、場合に応じたヒアリング等を行う改善が必要である。そして、ヒアリングを通じて得られた知見を議会内で共有を行い、具体的な政策として市民の過ごしやすさに貢献できれば①となるだろう。

総合評価 A 十分な成果が出ている、B 成果が出ているが改善の余地がある、C 成果が不十分、D 成果が出ていない

今後の方向性 ①現状のまま継続、②現状を基本に改善を検討、③改善点について議論が必要、④抜本的な改善が必要

○は追加資料